

令和6年度全国高等学校体育連盟ボート専門部（東地区）指導者講習会 実施報告書

- 1 日 時 令和6年11月30日（土）～12月1日（日）
- 2 会 場 宮城県塩釜市 宮城県塩釜高等学校西キャンパス
- 3 参加者 33名

第1日 研修内容

講義1

題名 「造艇技術者の考えるローイングメカニズム」

講師 西村ローイングシェル工房 西村登喜男

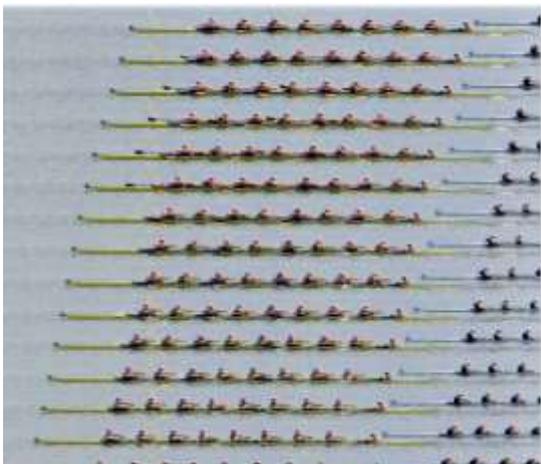
高校時代からローイング選手として活動し、造船メーカーに勤務後、現在はボートを造ることを本業とする中で、西村氏は「ボートの構造は詳しいが、その基本となるボートを動かす原理をはっきりさせないとボートの構造に裏付けが無い」と考え、ローイングメカニズムを研究されてきました。

【以下は、西村さんの講演を抜粋】

ボートによるローイングは漕手がオールを介して水に働きかけてボートを進める競技ですので、オールと水の間で起こる現象は無視できません。固体の陸上を自分の足で走るのと同じ考え方は出来ません。最近はこのような考え方をいかに分かりやすく伝えるか考えながら講習を行っています。

例えば、ボートがどう進んでいて漕手がどのような動きをしているかを画像で見せたいと思い、固定したカメラで走行するボートを連写し、一枚に並べたストロボ写真のようなものを作りました。これをきっかけにボートがどのような進み方をするのかのイメージを図化できるようになり、ローイングのイメージの説明がより明確になってきたとともに、その中で起きる現象がボートスピードに影響を与えるであろうとの推測も成り立つようになってきています。

ボートはどのように進んでいるのか



(西村氏提供)

これはその現象を利用するためのボートのリギングと言う形で構造にかかわってきます。さらにオールデザインにも影響を及ぼします。

私ももとはスカルでもレース活動を行っていましたので、現在でもスカルは漕ぎますのでこれを自分で体験してみる為に艇を所有しており、近年は試作艇を自作し考えた結果に基づく仕様を取り入れ、どの様に漕ぐべきか考えています。つまり、造艇技術者の観点からローイングのメカニズムを考えてみようとしているのです。さらにこの結果をほかの担当分野、例えばバイオメカニズムなどと連携すればよりローイングの質の改善が望めるのではないかと考えています。

近年は様々な情報が手に入りやすくなっていますが、自分たちが一生懸命考えていてこそ情報の正当性ははっきり出来、自分たちの考えを進めることにつながるのではないのでしょうか。スポーツも科学なくして発展しないと考えますし、その科学は常に修正されるものと言われます。新しい考え方が生まれてくるのは当然の事であり、それを見過ごしてはスポーツの進歩は無いと考えます。

講義終了後、多くの質問にお答えしていただき、その会話は懇親会まで続きました。

第2日 研修内容

講義2

題名 「ドーピング」について

講師 スポーツファーマシスト 嶋田 逸大 氏

午前中に行われた嶋田さんの講義内容の骨子を次に紹介していきます。

そもそも「ドーピング」とは何か？という定義ですが、嶋田さんによると、「選手の100ある能力を120~130にしてしまうこと」だそうです。またドーピングの検査の流れについて話があり、大きく言うと次のようなものです。

検査室への移動→検体採取（実際に出ているかその場で確認）→検体封印→書類確認
仮に違反があった場合、競技成績の取り消しや活動停止などの制裁が加えられます。これらについてはJADA（ジャダ）の「クリーンスポーツ・アスリート」のサイトで確認してほしいとのことでした。

また、話の中盤には「サプリメント」についても言及されました。というのも、ドーピング違反全体の41%がサプリメント関連であるからです。サプリメントの表示ラベルを確認しただけでは不十分であり、その理由としてサプリメントは食品であり、全成分を表示する義務はないためだということです。

後半には「クリーンスポーツを守ろう」という視点からパリ五輪のドーピング検査の実態を引き合いに出しながら、現在のドーピング検査の最新情報を示されました。最後にドーピング違反を無くすためには教育の果たす役割が大きいとして、カナダでの「アンチドーピング講習会」の内容について触れていました。このようにたくさんのデータを基にした嶋田氏の明晰な話しぶりが強く印象的に残った講義でした。



総括

お忙しい中、講師の労をお執りくださった西村様、嶋田様にも感謝申し上げます。また、講習会開催に際し、会場提供・運営準備にご協力いただきました宮城県ボート専門部の先生方にも大変お世話になりました。遠路よりご参加下さいました先生方からは、多くの質問を頂戴し、感謝しております。2日間の日程を通して各学校の体制や各水域での注意点にも触れることができ、大変有意義な講習会となりました。何かと課題の多いローイング競技ですが、今後とも皆さんと協力しながら取り組んでいけたらと願っております。

文責：秋田県高等学校体育連盟ローイング専門部
委員長 由利高等学校 坂本公正